

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(平成22年5月分)

ご協力ありがとうございました。平成22年5月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 168社 回答 154社 回答率 91.7%

調査項目	前 月 比					計	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上 昇・好況	やや 増加・上 昇・好況	横這い ・平常	やや 減少・下 降・不況	10%以上 減少・下 降・不況		10%以上 増加・上 昇・好況	やや 増加・上 昇・好況	横這い ・平常	やや 減少・下 降・不況	10%以上 減少・下 降・不況	
売上数量	4社 2.6% (8.8)	13社 8.6% (12.2)	39社 25.8% (39.2)	44社 29.1% (23.6)	51社 33.8% (16.2)	151社	34社 23.1% (33.3)	25社 17.0% (11.8)	30社 20.4% (25.7)	29社 19.7% (9.7)	29社 19.7% (19.4)	147社
売上高	5社 3.3% (8.1)	13社 8.6% (15.4)	38社 25.0% (34.9)	47社 30.9% (26.2)	49社 32.2% (15.4)	152社	37社 25.0% (26.9)	19社 12.8% (12.4)	33社 22.3% (26.9)	27社 18.2% (15.2)	32社 21.6% (18.6)	148社
在庫数量	5社 3.4% (2.8)	31社 21.4% (17.0)	75社 51.7% (50.4)	27社 18.6% (26.2)	7社 4.8% (3.5)	145社	11社 7.8% (7.2)	21社 14.9% (12.3)	40社 28.4% (26.8)	28社 19.9% (20.3)	41社 29.1% (33.3)	141社
販売単価	2社 1.4% (3.5)	50社 33.8% (36.1)	80社 54.1% (48.6)	12社 8.1% (9.0)	4社 2.7% (2.8)	148社	15社 10.5% (8.6)	32社 22.4% (22.1)	34社 23.8% (22.1)	33社 23.1% (20.0)	29社 20.3% (27.1)	143社
収益状況 (粗利)	2社 1.3% (10.1)	18社 12.0% (13.5)	54社 36.0% (46.6)	40社 26.7% (18.9)	36社 24.0% (10.8)	150社	39社 26.9% (26.9)	25社 17.2% (17.9)	34社 23.4% (22.1)	24社 16.6% (15.2)	23社 15.9% (17.9)	145社
稼働率 (生産・加工設備)	2社 1.7% (1.7)	13社 11.0% (15.1)	38社 32.2% (48.7)	32社 27.1% (23.5)	33社 28.0% (10.9)	118社	20社 17.4% (25.0)	17社 14.8% (12.9)	40社 34.8% (35.3)	23社 20.0% (11.2)	15社 13.0% (15.5)	115社
入出庫の トラック台数	2社 1.4% (2.1)	11社 7.6% (10.6)	54社 37.2% (52.1)	44社 30.3% (26.1)	34社 23.4% (9.2)	145社	16社 11.5% (17.3)	26社 18.7% (17.3)	48社 34.5% (37.4)	28社 20.1% (12.2)	21社 15.1% (15.1)	139社
現在の景況感	1社 0.7% (0.7)	3社 2.0% (6.1)	40社 26.7% (40.1)	35社 23.3% (16.3)	71社 47.3% (36.7)	150社	6社 4.3% (6.4)	23社 16.3% (21.4)	37社 26.2% (25.0)	30社 21.3% (16.4)	45社 31.9% (30.7)	141社
3ヶ月後の 景況予測	2社 1.4% (0.7)	8社 5.4% (4.8)	43社 29.3% (42.9)	35社 23.8% (17.7)	59社 40.1% (34.0)	147社						
特記事項	今月も各品種の〔特記事項〕が数多く寄せられましたので、別送にてお知らせいたします											

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
 ②()内の数字は前月のパーセントです
 ③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
 特記事項欄に別途記載いたします
 ④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
 事務局 TEL：047-350-5311 FAX：047-350-5316

景況実感調査(5月) 特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適切な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① メーカー値上げ分を完全には転稼出来ず、売上高に影響している。7月のメーカー値上げを転稼するのは、相当苦戦すると思われる。
- ② 6月に入り、材料価格の上昇(値上げ玉の入荷)とともに、値上げも実施しなければならぬが、ユーザー側のそれを受け入れる体力や気力に不安が残る。当然、与信面でのリスクを意識した交渉とならざるを得ない。直近では新日鉄でさえ売上比率で40%強が輸出であるといい、昔日の感あり。スクラップ価格の下落も、国内建築関連の低迷と併せて不安要因。Ni系SUSもサーチャージの巻き戻しをどうするのか。薄板ではゲーム機器関連に動きが見られ、数少ない増加部門となった。
- ③ 急激な値戻しにも一服感が見られる。7月以降の再値上げ発表で、更なる転稼に追い込まれているが、大変な需要不振の中で、値上げの遅れているユーザーへの価格転稼は容易ではなく、時間を要する。流通は再び冬へ逆戻りか。
- ④ 大型連休による稼働日数減少と建築関連の需要回復遅れの影響から、受注は前月比減少。材料は海外向け輸出環境変化の影響もあり、調達には一服感が出てきた。一方、材料価格は長期的な上昇傾向にあるが、需要は回復力に欠け、製品価格への転稼が受け入れ難い状況にある。
- ⑤ 販売低迷局面が2ヶ月続いている。現状は値上げ玉もあるが、大半は旧価格でまだ折り合える相場展開。市中在庫も適正、メーカー在庫も低位で、高炉値上げを控え、下げ相場だとするとマーケットの必要量が想像以上に減少しているのか。
- ⑥ 高炉の追加値上げの発表後に宝鋼の値下げが発表され、冷え切った需要に追い討ちをかける状況になってきた。この仕事量に、この粗利状況。いよいよ正念場を迎える。
- ⑦ 景況は前年より良いが、今後の値上げによりどう動くか。

中板

- ① 高炉メーカーの値上げ転稼が進まない。早く紐付きユーザーとメーカーの値上げ決着をしてほしい。
- ② 3、4月は前月比、前年同月比ともに増加していたが、各種鋼材値上がり前の先食い需要だったようだ。連休明けで動きが止まってしまった。
- ③ 5月の販売量は前月比大幅減となる。仮需が一段落したこともあるが、予想以上に実需が低迷したことが大きな要因。市況は前月中旬頃から踊り場状態が続いているが、スクラップ価格の下げが国内高炉、電炉の原料コストの価格差を広げており、今後も不安要素が大きい。高炉のコイルが入荷しており、採算割れに近づきつつあり、厳しい状況になるのは確実。また、販売減から在庫は一転増加傾向に変わり、極端な安値が出て不思議ではなく、厳しい商売を余儀なくされると思われる。今後もスクラップ、輸入材の動向と国内需要を注視し、市況維持に注力したい。

厚板

- ① 当月は低水準であった前月に比べ増加はしたものの、数量的には依然として高い状況ではなく、稼働率も8割程度である。首都圏の再開発関連の鉄骨が本格的に動き出したことにより増加したもので、橋梁はまだ低い水準である。厚板の需給が更にタイトになり、リードタイムが伸び、納期が入りにくくなっており、また、価格的にも今後更に値上がりが予想される中、少しでも山積を上乗せしたいが、環境的には厳しく、受注数量の確保がなかなか進まない状況である。

— 舟爰开彡金岡

- ① 需給のバランスが微妙に崩れている。スクラップの動向次第とメーカーは高をくくするような状況が見て取れるが、それ以上に国内の需要が少なすぎる。相場は上下運動が早い。しかも現状はメーカーの販売価格以下にて相場が下押すような状況だ。このままでは流通は疲弊してしまう。6月契約から7月にかけて極端なくらいの減産計画をメーカーから打ち出してもらい、相場維持に協力してもらいたい。
- ② 連休明け1週間は比較的荷動き好調なれど、それ以降、月末までは値上りの反動か、端境期か、今年に入って最低の荷動きだった。1月以降、歩調を合わせて値上げしてきたメーカーも来月6月は高炉製品、電炉製品個別の動きを取らざるを得ないのではないかと。更に流通手持筋も在庫圧迫や中国経済の動き次第で、売り気配に変わる可能性がある。

金岡管

- ① 3月、4月と仮需はあったが、5月になってから止まってしまった。5月は営業日数も少なく、低調な月となったが、6月、7月と上昇していくことを期待する。

構造用金岡

- ① 店売りを中心とした動きについては、5月は4月比稼働日数分の減少となったが、建機関連、工作機械関連は回復基調となっており、今後もゆるやかな回復が見込まれる。メーカー各社の値上げ実施に伴い、6月よりユーザーへの価格転稼を実施しており、6月以降、市況は上伸すると思われる。紐付きについては、自動車関連および一般産業機械、建設機械の部品関連も引き続き堅調な動きとなっている。

その他

< 曲げ加工 >

- ① 5月に入り、いっそう景気状況が悪化した。

< スクラップ >

- ① 5月の相場は、GW前をピークにGW明けは西の方から小刻みに弱くなり始め、湾岸地区も弱含みながら持ちこたえる。発生量はリーマンショック前よりは30%弱減っているが、昨年の5月と比べると20%ぐらい増えている。

< 金属表面処理加工 >

- ① 5月は物件物の一部工程後倒しおよび材料入荷遅れ等により、計画より減少となったが。紐付き、スポットの扱い量が大幅増にて、結果的には計画通りの処理量となった。6月は繰越受注残、高付加価値の加工が多く、高操業予定で平均単価も高い水準で推移しそうである。